

南部町社会福祉協議会における職員の意識調査

松井 純¹⁾ 中野 昌宏¹⁾ 石田 賢哉²⁾
渡邊 洋一²⁾

1) 南部町社会福祉協議会

2) 青森県立保健大学

Key Words : ①職務満足、②負担感、③社協職員としての自覚

I. はじめに

社会福祉法人南部町社会福祉協議会は平成18年3月、旧南部町、旧名川町、旧福地村の社会福祉協議会が法人合併し、設立された。

行政の合併とは異なり、旧社協それぞれに異なる活動、及び事業を展開してきたため、合併から1年以上たった現在も事業のすり合わせや調整に多くの時間を費やしており、多くの問題を抱えている。また、介護保険制度改革における介護報酬の改定、行政からの補助金および委託金の大幅減など、社協を取り巻く環境はかなり厳しくなっている。

このような状況の中で、本会は社協発展強化計画を策定中である。主な柱は「組織体制の再構築」、「業務の見直し」、「職員の意識改革」の3つである。特に職員の意識改革は最重要課題として取り組む必要があると考え、今回調査を実施したので報告する。

II. 目的

社協職員としての自覚や意識が職務満足や負担感にどのような影響を与えているかを明らかにする。また、課題を明確にすることで、南部町社協の組織や職員の研修方法の改善に取り組むこととする。

III. 研究方法

1. 調査実施期間 平成19年11月

2. 対象 南部町社会福祉協議会職員 95名

3. 調査方法 質問紙法（自己記入）

アンケート用紙は無記名とし、全て匿名として統計的に処理する旨明記し、記入後、封をした状態で回収した。

4. 分析使用ソフト SPSS ver15.0

IV. 分析の結果と考察

1. 質問項目

安達（1998）が作成した職務満足感スケール（職務内容9項目、職場環境8項目、人間関係10項目）、負担感には鈴木（2003）が作成したスケール10項目、職員の利用者との関わりについては石田（2006）作成のスケール3項目、そして社協職員としての意識に関する項目6項目から構成されている。

2. 分散分析

職務内容の満足、職場環境への満足、人間関係の満足、負担感それぞれを従属変数として、「社協に独自性はあると思うか」「社協職員としての自覚」「地域からの社協認知度の評価」「社協周知の必要性について」「社協広報を読む程度」の6項目を独立変数として分散分析（ANOVA）を行った。

1) 職務内容への満足 統計的に有意な項目は「社協職員としての自覚」であり、その影響の方向性は自覚している職員のほうがしていない職員よりも職務満足度は高いことが明らかになった

2) 職場環境への満足 統計的に有意な項目はなかった。

3) 人間関係への満足 統計的に有意な項目はなかった。

4) 負担感 統計的に有意な項目は「地域からの社協認知度の評価」の1項目であった。影響の方向性は「5割以上に知られている」を回答した職員の負担感の平均値は15.064であり、他の回答よりもきわめて低いことが明らかになった（全平均19.544、「社協周知は1割未満」を回答した職員の負担感の平均値は22.160）。

V. 考察

今回の調査では、職員はそれぞれ、自分の仕事に対しての誇りややりがいを感じていることが明らかになった。しかしながら、昇進や人生設計の可能性についての回答にはばらつきがみられた。また、職員同士の人間関係では良好であるにもかかわらず、各部門の協力体制や組織との関わりについて課題があることも示された。特に、業務におけるスーパービジョンについて、職員のモチベーションに大きな影響を与えていることが明らかになった。

当社協は、ボランティア活動や権利擁護事業、当事者団体等の地域福祉事業のほか、介護保険事業も広く展開している。それぞれ個人のスキルアップはもちろんだが、お互いの事業や業務について理解を深める必要があると感じた。また、研修についても経験年数に応じた研修内

容やコーチングの技術を取り入れるなどの工夫も今後検討していきたい。

文献

- 1) 安達智子（1998）「セールス職者の職務満足感－共分散構造分析を用いた因果モデルの検討」『心理学研究』69（3）、223－228.
- 2) 鈴木あおい（2003）「精神障害者グループホーム職員の職務満足度と負担感に影響する織的要因についての研究」『精神障害とリハビリテーション』7(1)、47-53.
- 3) 石田賢哉（2005）『地域における精神障害者の生活の質に関する研究－地域の日中活動における主観的QOLの視点から』2005年度博士論文（人間学博士）大正大学大学院.